

## アメリカ入国禁止/聖餐式

本日の預言アップデートは、今回もみなさんには、どうか忍耐強くお付き合いいただきますよう、お願いします。今朝は、早朝に起きて、アップデートをアップデートして、アップデートが、アップデートされるようにしました。非常に多くの事が、ものすごい速さで起こっていて、今日お伝えする事がたくさんあるのです。正直いうと、トランプが大統領に就任して以来、仕事がとても難しく、それから忙しくなりました。でもそれは、自分が大統領に選ばれたら行うと約束したことを、彼が実際に行っているからであって、これはとても良いことです。それが、トランプが大統領に就任したことで、聖書預言の成就が加速したと、私が考える理由です。”トランプが大統領になった事で、全てが表面化した“と言えるでしょう。すべてが、はっきりしてきたのです。

私の計算が正しければ、トランプが大統領に就任して、今日（2/5）で17日です。彼が就任して以来起こった事や、また現在起こっている事に追いつくのが、非常に困難です。就任初日から、これまでの間に彼が行った事をインターネットで調べてみましたが、それは何ページにも及びます。彼がすでに行った事、それからすでに動き始めた事は、何ページにもわたります。しかも、これらは急速な展開で、ロシア、イランに関する地政治的側面は、特にそうです。彼はさらに、最高裁判事の候補者を発表しました。彼は、“宗教の自由”において、大きな一歩を踏み出し、それによって、大きな対立を生んでいます。イスラエルと、いわゆるパレスチナ、それからヒトラー政策の再梱包である“二国解決策”。それに関して、私がどう考えているかは、皆さんももうご存知だと思います。そして、これらに加えて、トランプのアメリカ入国禁止令、暴力的なデモ、そして判事による命令。それらの結果として、現在、非常に不安定な状態に陥っています。

まずは、木曜日のYnet Newsから。トランプがツイッターでイランに警告した内容を報道しています。「彼らは火遊びをしている」「オバマ大統領が、彼らに対して非常に“親切”だった事にたいして、彼らは感謝していない。」それから、トランプは言いました。「私は違う！」。これ、私は気に入りました。そろそろいい加減にしないとイケません。

The Jerusalem Postによると、

——トランプの警告に対してイランは嘲り、「アメリカの新大統領は、過激な事をわめいているが、誰も真剣に受け止めていない。ハリウッドに言っているようだ。」と言い、弾頭ミサイル実験をつづけた。イラン最高指導者の上級顧問が発言して、「アメリカ国家安全保障顧問 Michel Flynn が、どう脅しても、イスラム共和国は“精力的に”ミサイル計画を遂行し、イランは公式に告知する。」最近の彼らの活動を巡って、トランプ政府高官がその日伝えたのは、「イランのミサイル実験に対して、トランプ政権は、全領域でのオプションを検討している。」——

どうやら、イランは、なにがなんでもミサイル実験を行おうとしているようで、その証拠が、イランの挑

戦に関するこの The Time Of Israel の報道で、アメリカによる制裁の翌日に、彼らは大掛かりなミサイル訓練を行いました。記事を引用します。これはまだ優しい言い方ですが。

——先月、ドナルド・トランプが大統領に就任して以来、ワシントンとテヘランの関係は、急速に悪化している。トランプは、イランがアメリカの利益と味方国にたいして、交戦状態にあるとみなし、強硬路線を約束。アメリカによる制裁が発表された数時間後に、新米国防総省長官 James Mattis はイランを『世界中のテロを支援している、最大の独立国家だ』と言った。——

だから、そろそろいい加減にしないと、と言ったのです。トランプの警告と言え、先週、私が書籍で調べものをしている時、みなさんがネットサーフィンをしていたでしょう。Fox ニュースを聞いていると、この報道が聞こえてきました。

「新しい入植活動に関して、トランプが、イスラエルに警告」  
耳を疑いました。報道によると

——イスラエルが西岸での入植活動を、あたりにまた拡大している事に対して、トランプが警告したと、ワシントンポストが確認したようだ。「公式な立場が認められていない、入植活動を続ける事は、中東和平達成の助けにならないだろう。」政権もまた、アメリカ大使館をテルアビブから、パレスチナ人も自分たちの首都だと主張しているエルサレムに、即座に移動させることの契約も取り消した。——

これに対して、私の最初の反応は、恐らく、同じ報道を聞いていた方は、みなさん同じだったと思いますが、「ああ、撤回したな」「彼は、自分がすると言った事を撤回している。」「思った通りだ。」「誰かに説得されたんだろう」と私は思いました。今朝 Ynet News は、

——イスラエルのアメリカ大使館の約束が、政治的問題を危惧して、遅らされる件に関して裏付けをとったようで、二国解決案に“反対”、入植に“賛成”の、Frideman の、歯に衣着せぬ発言を引き合いにだして、共和党高官が危惧を表明。——

トランプもそうでは無かったですか？The Jerusalem Post も、ヘッドラインで報道しました。

——トランプが、入植計画の危険を認識。西岸の、さらなる入植建設に回答した書記のホワイトハウスの草案が、木曜の The Jerusalem Post に漏えいされ、その中で、イスラエルに、入植地の発表も含めて、平和をでっちあげる一方的な行為“トランプ効果”を弱体化させると警告。政権は、全てに関して、関係者全員と話し合う必要があると、政権が伝えた。アメリカは、イスラエルと、パレスチナが、隣り合って、“平和に安全に”暮らす為、包括的、かつ最終的な合意を促進する事を約束する。——

思った通りです。記事は続きます。

——2時間以内に、実質アメリカの大手メディア媒体の全てが、元々のホワイトハウスからの報道を無

理やりかき混ぜて、最終的に、彼らの言葉に置き換えた。彼らは、過去の政権で使い慣れた言葉に置き換え、「入植計画の拡大、新しい入植計画は、平和促進の“助けにならない”」と伝え、ホワイトハウスが公式に発表したのは、「現存の入植は、パレスチナとの平和合意の“妨げにはならない”」ホワイトハウス報道官の、Sean Spicer が加えて言ったのは、これまでは、“助けにならない”と硬化され、助けにならなかったでしょう。しかし、“障害にはならない”という事は、実際、障害にはならない様に、軟化されている。——

一体どういう事ですか？ Enter Breitbart の報道によると、  
「トランプの、イスラエルの入植反対は、何よりも“偽ニュース”だ」  
記事の一部を読みます。

——ドナルド・トランプ大統領が、イスラエルの入植に反対したとの報道に、大手メディアは騒然としている。New York Times は誇張して、「トランプは、オバマの外交政策を支持」——

本気ですか？これがニューヨークタイムから発信されても、驚きませんか？

——このような話は、2つのプロパガンダ（宣伝）を目的としている。一つは、去年、国連安保理での入植地に関する、オバマのイスラエルに対する裏切りを正当化する為。もう一つは、“トランプは、保守派に約束した自分の言葉を守らない”という主張を押し付けるため。——

ただ問題は、話が偽りであるという事。こちらは、  
木曜日のホワイトハウスが発表した、文章の全文です。

——イスラエル、パレスチナ間の平和に対する、アメリカの願いは50年間変わる事が無い。入植が、平和の妨げになるとは、我々は思っていない。——

ところで、これまでこれを言った大統領は、一人もいません。入植は、全て国境内で行われていますが、これまですべての大統領が、それに対してイスラエルを非難しました。よく考えてみてください。

——新しい入植建設も、現存の入植地拡大も、現在の国境を越えて行われれば、平和の達成の助けにはならないだろうが、入植の存在が平和の妨げになるとは、我々は考えていない。——

これは出回っていたものとは、大違いですよ。大統領は、何度も言っているように、中東地域での平和を達成する事を望んでいる。

——トランプ政権は入植活動に対して、公の立場をとっていないが、それも含めて、今後話し合うことを期待している。——

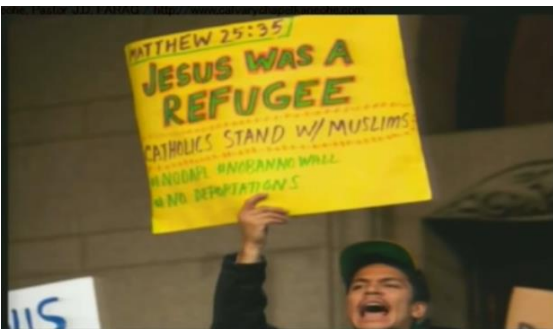
ところで、今月の2月後半に、ネタニヤフ首相が、ここアメリカでトランプ大統領を訪問会談します。ちなみに、私が確信をもって言えるのは、イスラエルのベンジャミン・ネタニヤフ首相は、裏口から入らなくても良いでしょう。記事は続きます。

——間違いなく、トランプは、慎重に中東に対処している。——

私は聡明だと思います。彼は、前任者とは違う道を取っている。それに対して、私は神を賛美します。

——そして、大手メディアはますます、政治を批判して得点を得ようと、躍起になって、またしても自らを敗者とおとめている。——

次に、トランプのアメリカ入国禁止令と、宗教の自由に移ります。木曜日のロイターの報道によると、



——トランプは国内外両方で、非常に激しく非難されている、7か国の主要イスラム諸国からのアメリカ入国の一時禁止令を防衛。「これはアメリカ国内で、宗教の自由と寛容を守るためには、必須である」と伝えた。——

これに関して、皆さんには忍耐強く、よく聞いていただければと思います。トランプの名誉のために言いますと、これに関して、彼は約束通りの事を行っているのです。特に、彼の“親クリスチャン”の政策に関して言えば、この“入国規制”はまさにそれが目的です。私がこれからいう事を、よく聞いてください。

“親クリスチャン政策”の一つは、1954年に修正された、ジョンソン修正案で査定される「発言の自由」。これに関して、聞いたことのない方もいらっしゃるでしょうが、大丈夫です。牧師たちはこれを良く知っています。問題は、トランプが行っている事の全て、トランプが実行しているすべての“親クリスチャン”政策は、残念ながら、現在のアメリカの教会の無知と対峙しているのです。特に、いわゆる“難民”に関してです。これが、今日の集会で聖餐に預かる前に、主が語ろうとされている事だと、私は感じています。

そしてこれが、私が今朝、数時間かけて行っていた事で、預言アップデートのやり直しです。何故かと言えば、昨夜、ベットに入ってからこれを考えると眠れなくて、また、どうしてこの事に、私はこんなに憤っているのか？と。私はもう、これらのデモを見るに耐えかねて、また別の判事が、滞在許可を出したと言うのを、聞くに堪え切れませんでした。ちなみに不法ですよ。

写真をご覧ください。そしてまた、よく聞いてください。

この写真の抗議者が手にしている看板は、

『マタイ 25:35 イエスも難民だった！カトリック教徒は、イスラム教徒の味方だ!!』

その箇所を読んでみましょう。これがマタイ25章というのが面白いですが、この抗議者が間違っ  
て引用し、大きく曲解しているこの箇所を、読んでみましょう。

“人の子が、その栄光を帯びて、全ての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きま  
す。そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、  
彼らをより分け、羊を自分の右に、山羊を左に置きます。そうして、王は、その右にいる者たちに言いま  
す。

『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたに備えられた御国を継ぎなさい。あ  
なたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べるものを与え、わたしが渴いたとき、わたしに飲  
ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、——”（マタイ25:31-35）

これが、抗議者が手にしていた聖句の箇所です。続きを見てみましょう。

“わたしが裸のとき、わたしに着るものを与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢  
にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』

すると、その正しい人たちは、答えて言います。

『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べるものを差し上げ、渴いておられるのを見て、飲  
ませてあげましたか。いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着るも  
のを差し上げましたか。また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おた  
ずねしましたか。』

すると、王は彼らに答えて言います。

『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者  
たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。

『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使い達のために用意された永遠の火にはいれ。おま  
えたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、わたしが旅人  
であった時にも泊まらせず、裸であったときにも着るものをくれず、病気の時や牢にいたときにもたず  
ねてくれなかった。』

そのとき彼らも答えて言います。

『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるの  
を見て、お世話をしなかったのでしょうか。』

すると、王は彼らに答えて言います。

『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、  
わたしにしなかったのです。』

こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。』”

（マタイ25：35-46）

どうか聞いてください。この、イエスが言われている人たちは、ユダヤ人の事です。彼の兄弟たちです。アラブのムスリムではありません。ところで、この“兄弟たち、しかも最も小さい者たち”とは誰の事ですか？彼らは裸で、彼らは病気で、彼らは迫害されている。彼らは殺され、彼らは空腹。これは、ユダヤ人ではないですか？

「まあ、先生！」

「愛はどこに行ったのですか？」

「かわいそうに思いませんか？」

私は、“愛がない”と非難される事は重々承知です。しかも、大抵そう言って非難する人は、こう言うのでしょう。

「我々クリスチャンとして、すべての難民を愛し、受け入れるべきではないですか？！」

「イエスは、“隣人を自分と同じように愛しなさい”と私たちに命じませんでしたか？」

「彼らは、私たちの隣人ではないですか？」

さて、彼らは、これまた聖句を部分的に切り取って、イエスが言われた良いサマリア人についてのたとえ話を、間違っ引用しています。こちらも読んでみましょう。ルカの福音書10：25から始めます。

“すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。

「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

イエスは言われた。

「律法にはなんと書いてありますか。あなたはどの様に読んでいますか。」

すると彼は言った。

『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」

イエスは言われた。

「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。

「では、私の隣人とは、だれのことですか。」

イエスは答えて言われた。

「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎとり、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。」(ルカ 10:25-30)

まるで、ムスリムたちが、ドイツで行っている事のようなですね。よく考えてください。言いたくありませんが、これらの、イスラム難民たちが、女性をレイプしているのです。彼らは盗み、人々の全てをはぎ取って、そして半殺しにしている。どういう事ですか？ここでは、イエスが自分の隣人とはだれかを、伝えていますが、明らかに、ここから何かを伝えようとされているようです。

“たまたま、祭司がひとり、その道を下ってきたが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。ところが、あるサマリア人が、—” (ルカ 10:31-33)

みなさん、理解しておかなければならないのは、サマリア人はユダヤ人を憎んでいて、ユダヤ人はサマリア人を憎んでいたのです。

“ところが、あるサマリア人が、旅の途中、そこに来合せ、彼を見てかわいそうに思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。次日、彼はデナリ2つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』”

さて、この三人の中で、だれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」

彼は言った。

「その人にあわれみをかけてやった人です。」

するとイエスは言われた。

「あなたも行って同じようにしなさい。」” (ルカ 10:33-17)

この箇所が、難民全員にアメリカに自由に出入りさせることを、正当化しない理由、たくさんある中から、主な理由を2つお伝えします。

1つ目。良きサマリア人は、この人を自宅に連れて帰って、自分の家族を危険にさらすような事はせず、彼はお金を払って、その人を宿に泊ませた。次に、良きサマリア人は、自分の意思でこの人を助けたのです。別の言い方をすれば、誰にも意思に反して、そうするように、強要されたのではない。私にとってはこれで十分ですが、さらに言えば、真実は逆だという事です。これはユダヤ人だったのです。これはユダヤ人だった。半殺しで放置されているのは、ユダヤ人です！

私が個人的に、これに対して非常に憤る理由は、これが私の個人的な事だからです。ご存知の通り、私自身も元々は難民だったのです。ただ私は、本物のクリスチャン難民で、両親が**イスラムから逃れるために**、アメリカ合衆国に**合法的**に入ってきたのです。これが全ての目的ですよ。イスラムテロリストを締めだし、真のクリスチャン難民たちの入国を認める。それが1963年、私のお母さんとお父さんが、ここに来た時、私に起こった事です。



1963年の新聞記事です。あれは私です。タイトルは「エジプト人家族が、ワシントンのエバレットに難民としてやって来た」

これに関して、少しお話しさせていただきます。

—記事—

難民として脱出してきた、Faiez S. Farag ご夫妻と、息

子 Wahid（私です）が、Everet Memorial Chapel コミュニティーバプティスト教会の Paul Pruitt 牧師に出迎えられた。教会の助けによって、私のエジプト人兄弟たちが、真の難民として、ワシントン州にやって来た。Farang さん（私の父）は、言います。

「私が出てすぐ、様々なクリスチャンの団体と、ユダヤ人に対しても迫害が始まりました。彼らは仕事を失い、財産を失い、人権を奪われました。」

「1963 年 3 月 20 日は、私の新しい誕生日だと思っています。この日、私たちは、素晴らしい街に降り立ち、新しい人生を開始した。」と Farag 氏は言います。

「この機会を与えてくださり、私たちの心は、感謝の気持ちでいっぱいです。」——



それから 20 年後の 1983 年、34 年前です。こちらは、私のお母さんとお父さんです。この記事は、地元新聞で報じられたものです。ヘッドラインは、「政治的移民、アメリカを大いに称賛」私の両親の言葉を引用した、この記事を見てください。——記事——

Faiez Farag 氏と、妻の Basma さんは、中東での宗教の違いによる抗争から、幸運にも逃れた政治移民だ。

Farang 夫妻はアラブ人クリスチャンで、その地域では、主に 3 つの宗教が存在した。Farang 氏によると、彼はイスラム教からキリスト教の魅了され、それによって、政府との間に問題が生じたと言う。

「政府が、私を危険人物だと思ったからです。」彼は肩をすくめ言います。

「私は、どの宗教も攻撃したことはありません。ただ、聖書に書かれた真実を指摘しただけです。」

彼の妻（私の母）は言います。

「私たちには、立ち退きまで 24 時間の猶予を与えられましたが、私たちは 1 週間を懇願し、ようやくそれが受け入れられたのです。」

最後の日々、彼らの命は危険にさらされ、Farang 夫妻は、中東での対立には何の解決策もないと言います。イスラムとユダヤ人が、共に平和に暮らすことは、決してない。Farang 氏は言います。

「ヨルダンでは、私たちはカーテンを閉じて、礼拝しました。歌う事は禁じられ、私は刑務所に何度も連行されました。私の兄弟は、ムスリムたちに拷問されました。私たちは、3 年半の間、常にピリピリとして生活しました。」

Farang 夫人は言います。

「私たちが、この国で初めて寝た晩は、天国にいるようでした。私たちを殺そうと、やって来るものは誰もいない。私たちに対して、偽の訴えをするために証拠を探し回るものは誰もいない。最高でした。アメリカ人たちは、他の国の状況など分かっていない。彼らは、アメリカがあたり前のように思っているわ。でも、私と夫は、アメリカに感謝の気持ちでいっぱいです。」——

だから、この事は私にとって、個人的な問題なのです。そして問題があります。これは、私たちひとりひとりが自問すべき問題です。よく考えてください。もし、アメリカがそれほどまでに悪いなら、我々は、大きいサタンでは無かったですか？ムスリムたちは、アメリカをそれほどまでに嫌うなら、どうして、そ



もそもアメリカに来たいと思うのか？誰か、答えられますか？私は答えを持っています。私は、全ての答えを知っていますから。

それから、どうして他のイスラム諸国は、仲間であるこれらのイスラム難民を受け入れないのか？彼らには、土地がたくさんありますよ。最近地図を見ましたか？

答えはこれです。それは、融合が目的ではないからです。もし、あなたがそれを信じているなら、私はイエスの御名によって言います。あなたは欺かれています！あなたは、欺かれています！そして、偽りの父から出た嘘を信じている。これは、融合が目的でなく、侵入と征服が目的で、イスラムの目標である、全世界支配の探求ですよ!!!それがイスラムの意味です。力づくで、剣によって、支配する。これは、コーランで命じられているのです。インフィデル(異教徒)の首を切って、斬首する。クリスチャンと、ユダヤ人、“書の人々”、それが全てですよ!!

では、次に何が起こるのか？分かりません。しかし、神をご存知です。ちなみに、全ては神の計画通り、完璧に進んでいます。聖書預言の暦の上では、全ての事は、聖書預言の預言通りに進んでいます。神が私たちに告げられた通りの事が、起こっています。だからこそ、毎週この預言アップデートを行っています。神が私に息をお与えになる限り、ラッパが鳴るときまで、私は、毎週この預言アップデートをし続けます。神のラッパが響き、キリストにある死者がまず初めによみがえり、次に生き残っている私たちが雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うその日まで（第一テサロニケ4:16-17）。私はこれが、すぐにも起こると思っています。だからこそ、私たちはしっかりと目を見張って生きるのです。特に、これらがやって来る日々は。主の来られるのが、今までで最も近づいているのです。主は、戸口に立っておられます。もし、これまでに一度も主の御名を呼び求めた事のない方は、どうか今日、呼び求めてください。

これから、福音を最も簡単な形でご紹介します。誰の知性も、侮辱するつもりはありませんが、これは、子どもにでも分かるほど簡単なのです。今日、聖餐の食卓に預かる前に行く、これ以上に適切な時はないでしょう。これは「福音のABC」と言います。

### **A=Admit（認める）**

自分が罪びとで、救い主が必要なことを認める。

*“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受ける事ができず”（ローマ3:23）*

### **B=Believe（信じる）**

イエスが、あなたの罪の対価を全額贖い、そして死からよみがえったと心で信じる。

*“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ10:9）*

### **C=Call（呼び求める）**

とても簡単で、主の御名を呼び求めるのです。

もしあなたが、心で信じて口で告白し、主の御名を呼び求めるなら、ローマにある通り、

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」”(ローマ 10:13)

私はこれを35年前に行いました。35年前、私は主の御名を呼び求めて救われたのです。もし、あなたがこれまでに、一度も呼び求めた事がないなら、今日、そうされますようにと祈ります。

祈りましょう。

愛する天のお父様。真理の御言葉に感謝します。イエス様、あなたが、真理であり、道であり、いのちであられることに感謝します。イエス様、あなたを通してでなければ、誰も父のみもとに行けないと、明確にしてくださり感謝します。主よ。今日、私が牧らせていただいている、この素晴らしい教会の中にいる人で、もしくは、世界のどこかでインターネットを通して観ている人の中に、あなたの御名を呼び求めた事の無い人が居るなら、今日、彼らが救われますように。今日、彼らの救いの日となりますように。イエスの御名によって祈ります、アーメン。

## 聖餐式

ルカ22章で、私たちは“最後の晩餐”で知られる、これを、行うようにと命じられています。ルカが聖霊により、記しています。

“さて、時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもいっしょに席に着いた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過ぎ越しの食事をするをどんなに望んでいた事か。あなたがたに言いますが、過ぎ越しが神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過ぎ越しの食事をすることはありません。そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。私を覚えてこれを行いなさい。」”(ルカ 22:14-20)

わたしたちが手にしているのは、砕かれたイエス・キリストの体の象徴です。私たちの罪のために、私たちの代わりに砕かれました。聖餐の日曜日はいつも、主が私たちに何を用意しておられるのか、楽しみにしているのですが、毎月、第一日曜日、共に聖餐にあずかる時はいつも、聖餐の食卓の祭壇に、新しい炎が燃やされます。

そして今日、主が私に言われたのは、パウロが、ローマの教会に書いた次の事に関してです。

“罪はあなたがたを支配することがない”(ローマ 6:14)

これは、実は誤解されていて、ある人は“罪の誘惑”がもはや私たちに支配する事はないと、パウロが言

っていると解釈しています。言い換えれば、「罪への誘惑が、あなたの人生を支配する事はもうない」しかし、ここはそういう意味ではありません。ここで言っているのは、罪への罪悪感が、もはやあなたの人生を支配することはないのです。誘惑が罪ではありません。イエスも誘惑されましたから。誘惑されることは、罪ではない。問題は、ある人によると“罪の構造”サタンはいつまでも非難して、その上に私たちの人生を構築させようとするのです。そうして、私たちをおとしめようとする。そして、罪悪感が私たちを押しつぶし、私たちを神から離れさせるのです。それをパウロは言っているのです。もう、あなたの罪への罪悪感が、あなたがたの人生を支配する事がない。それを、今日私たちは、ここで祝っているのです。

“こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。”  
(ローマ8:1)

いいですか？今日、みなさんがここにどんな罪悪感を持ち込まれたか、私には分かりません。でもそれは、今日、あなたのものでは無いのです。今日、その罪に対する神の赦しを受け取るには、これは、とても良い機会です。サタンがずっと、あなたの顔に突き付けていたでしょう。

「神は、もうとっくにお前の事など諦めているんだ。」

「何回悔い改めるんだ！」

「神は、何度赦せばいいんだ！」

それは、主がペテロに言われましたね。我々人間は、自分に対して罪を犯した人にたいして、「七度を七十倍するまで」許しなさい(マタイ18:22)。つまり、490回？聞いてください。あなたに対して490回罪を犯す人と言うのは、よっぽどですよ？「今、その人の顔が浮かぶよ！」という人もいるかも知れません。ポイントは、私たちはお互いに、数えきれないほど許しあわなくてはならないということです。例えば、490回数えてみてください。途中で分からなくなるでしょう。そこがポイントです。だとすれば、天の御父はどれほどまで、私たちの事を許してくださるか。

“主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。」”  
(イザヤ1:18)

“東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。”(詩編103:12)

“もはや、彼らの罪を思い出さない。”(ヘブル8:12)

これを、今日私たちはここで祝っているのです。イエス・キリストの体を象徴する、砕かれたパンを共にいただくことによってです。一緒にいただきましょう。

主よ、感謝します。私たちの罪に対する、罪悪感が、もうない事に感謝します。今後一切、私たちの罪を非難する権利が、敵にはない事に感謝します。あなたが、十字架の上で成就して下さった事のおかげです。主よ。ありがとうございます。

ルカは続けて言います。

“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなた方のために流される、わたしの血による新しい契約です。」（ルカ 22:20）

私たちが、手にしているものの象徴、そしてその重要さは、強調し過ぎる事などできないと私は考えています。それは、イエスの血に力がある為です。聖書にはこうあります。

“血を注ぎだすことがなければ、罪の赦しはないのです。”（ヘブル 9:22）

面白いのは、イエスが過ぎ越し祭りの子羊を、過ぎ越し祭の日に成就させている点で、その日、ユダヤ人がまさに過ぎ越しの祭りを祝おうとしていたその時でした。ところで面白いのは、過ぎ越し祭は、イエスによって成就され、同じように、種無しパンの祭りも、初穂の祭りも、イエス・キリストの死と、埋葬と、よみがえりによって成就されました。主は、彼らがまさに祝おうとしている祭りを、成就されるどころだったのです。そして、それを覚えて、私たちは現在これを行っています。旧約時代、ユダヤ人は、罪をただ覆う事しかできませんでした。神の律法の背きを覆う贖いの座、それで罪を覆われた。ヘブル語で「Kaphar」。しかし、それは旧約の時代で、主は、この杯によって、新しい契約を成就されました。主の血潮が取り除くのです。背きの罪を、もはや覆うのではなく、完全に取り除く。それを今日は、ここで祝っているのです。ともにいただきましょう。

主よ。ありがとうございます、と言うだけでは全く足りなく、表現しきれません。あなたが、私たちの為にしてくださった事に対する感謝の気持ち、あなたは、私たちの為に死んでくださり、私たちの全ての罪の対価を支払ってくださいました。それほどにあなたは、私たちを愛してくださいます。御父よ。あなたは私たちを本当に愛しておられ、その為に、あなたはひとり子をお与えになりました。御子を信じる者が、だれ一人として滅びることなく、永遠のいのちを得るためです。その愛は、あまりに高く、私たちには理解できないほどです。主よ、ありがとうございます。人の為にいのちを捨てる以上に大きな愛はありません。それをあなたはしてくださりました。主よ。その事に対して私たちは感謝し、そして、あなたを愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe（英語）、「DIVINE US」（日本語）を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」  
ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい